

電気給湯分野でのカーボンニュートラル ～電気ボイラーの現状について～

大塚 朗（おおつか あきら）株式会社日本イトミック マーケティング部 主査

要約 給湯分野において、従来型の燃焼系の熱源を利用した給湯から、電気を利用したクリーンな給湯への転換が求められている。日本イトミックは、電気給湯機器の環境性能の向上を目的とする開発と研究を長年続けており、これまでに数多くの供給実績を積み重ねてきている。昨今のカーボンニュートラルをはじめとする環境負荷低減の国際的な潮流の中で、当社はより環境性能の高い「業務用エコキュート」と「電気瞬間湯沸器」の開発と販売に力を入れるとともに、旧来型の電気給湯器・電気ボイラーをも含めた総合的な「給湯の電化」を進めていくことで、業務他部門における用途別エネルギー消費で16%を占める給湯分野において大きな役割を果たすことができると考えている。

1. 大型電気ボイラーの現状

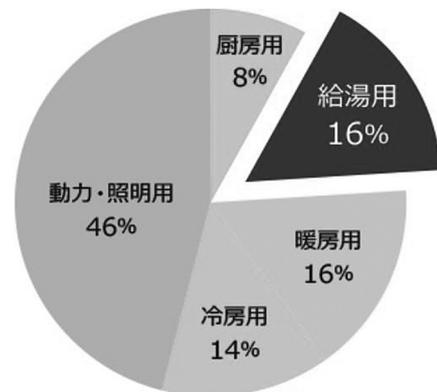
カーボンニュートラルに最も寄与する電気給湯機器は当社製品で言うとエコキュートと電気瞬間湯沸器である。エコキュートは宿泊施設や福祉施設など大型の施設やロードサイドの飲食店などにおけるセントラル給湯で利用されることが多く、対して電気瞬間湯沸器はセントラル給湯におけるメンテナンスなどの負担増を嫌う向きに個別給湯として導入されている。

当社はこれらのエコキュートと電気瞬間湯沸器を開発する以前より大型の電気ボイラーの開発と販売を続けている。環境意識の高まる時代に合わせ、上記のような、より環境配慮型の製品の開発と販売も行っているが、依然として大型の電気ボイラーの需要は続いている。その理由として以下にいくつか挙げてみたい。

1.1 電気給湯システムそのものの低環境負荷

世界的な課題としてCO₂排出量の削減や脱化石燃料が進められ、次世代技術とイノベーションが求められ続けている。日本では特に産業分野や民生分野における燃焼系の機器からの転換、高効率技術の進展が期待され、電気エネルギーの導入も広がっている。当社でも高効率の給湯機器である業務用エコキュートを業

界で最初に開発し、現在では3ラインナップを展開しており、販売は好調である。そんな中、いわゆる旧来型の電気給湯器も好調な販売が続いており、中でも大型の「電気ボイラー」は大量給湯用途として依然需要がある。そもそも電気エネルギーを利用した「電気給湯機器」は、ガスや石油などの燃焼系エネルギーに比べ、機器そのものでCO₂を排出せず、地球を汚さないクリーンな製品である。電気給湯システムは、CO₂をはじめとする温室効果ガスの排出量から、植林や森林管理などによる吸収量を差し引いて合計を「実質ゼロ」にすることを目的とした「カーボンニュートラル」



業務他部門における用途別エネルギー消費

